

(様式5)

事業実績書

1 校内概要及び実施対象学年

(1) 児童数及び学級数

| | 1年 | 2年 | 3年 | 4年 | 5年 | 6年 | 計 | 備考 |
|---|----|----|----|----|----|----|----|---------|
| 男 | 2 | 4 | 9 | 4 | 7 | 8 | 34 | 転校生3年1名 |
| 女 | 2 | 7 | 6 | 11 | 6 | 5 | 37 | 転校生5年1名 |
| 計 | 4 | 11 | 15 | 15 | 13 | 13 | 71 | 各学級1学級 |

(2) 事業実施対象学年

1～6学年 71名(男子34名 女子37名)

2 事業実施機関 平成22年4月8日～平成23年3月8日

3 事業内容

- (1) ムギワラギクの栽培とリース作成
- (2) そば・稲・大豆の栽培学習
- (3) 小本川の環境学習
- (4) 早坂高原や門の自然観察学習
- (5) 花壇整備や環境美化等による環境保全学習

4 事業の成果と問題点

(1) 事業の成果

ア 年間指導計画を見直し、総合的な学習の時間や生活科、社会科等の学習に体験学習を位置づけ、純粋な農業体験学習に止まることなく、自然環境や食文化、歴史等の関連について、事前事後指導を行うことにより、環境と人とのつながりに対する理解を深めることができた。

イ 年間指導計画の見直し、学校支援地域本部事業との連携及び校内分掌の見直しを通して、地域の教育素材(人、もの、場所等)の整備を一層推進するとともに、家庭や地域との連携による指導支援体制の定着を図ることができた。

ウ 事前事後指導を確実に位置づけるとともに、問題解決や体験活動に積極的に取り組むことを通して、自ら課題を見つけ、自らまなび、主体的に判断し、よりよく問題を解決する能力をはぐくむことができた。

エ 地域の学習素材を活用することにより、ふるさとへの愛着、自信、誇りを培うことができた。

(2) 問題点等

ア 自ら考え、判断し、行動することを意識した指導法や支援体制の改善を図るとともに、体験を通して学んだことを表現する能力をはぐくむこと。

イ 新学習指導要領の完全実施による総合的な学習の時間等の時数減少に伴い、事業内容の精選を図ること。

ウ 学校支援地域本部事業が最終年度を迎えたことから、定着してきた家庭や地域との連携について、維持発展を目指す仕組みづくりを行うこと。